

社会で生き生きと活動する基礎をはぐくむキャリア教育

－「せともの」をモチーフにした3年間を見通した実践－

瀬戸市立本山中学校

1 はじめに

ニート、フリーターと呼ばれる定職に就こうとしない若者層の増加が社会問題になっている。また、若者の勤労観・職業観の未熟さ、コミュニケーション能力やマナー意識の低下を指摘する声がよく聞かれる。このような情勢を受け、学校教育の中で、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」、すなわち、キャリア教育の必要性が叫ばれるようになった。

国の施策の中で、平成17年度に経済産業省が中心となり、文部科学省・厚生労働省と連携して、「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」が打ち出された。瀬戸市において瀬戸商工会議所のコーディネートの下、市内小中学校と地元産業界が連携し合っこのプロジェクトが進められている。本校も、初年度の平成17年度からこのプロジェクトに参加している。

本校では、キャリア教育を進めるに当たって、そのねらいを、「社会で生き生きと活動する基礎を育む」ことにした。このねらいの下、まず、職業や働くことについての理解を深めさせたいと考えた。さらに、職業や働くことに対して、前向きなとらえ方、積極的な職業観・勤労観をもたせることが必要であると考えた。

2 本校におけるキャリア教育の手だて

(1) 職業人との出会いの場の設定

「社会で生き生きと活動する基礎」をはぐくむという本実践のねらいを達成するために、最も重視したいのは、実際に「社会で生き生きと活動」している方々と生徒が会う機会を多く設定することである。様々な職業の方々と会う機会をできる限り多く設定し、生き生きと働く職業人の声を聞かせたり、姿を見せたりしたい。そうすることで、具体的に職業や働くことについて理解を深めさせたり、前向きな職業観・勤労観をもたせたりできると考える。

(2) モチーフとしての「せともの」

瀬戸市は古くから続く焼き物の町で、本校学区は、かつて瀬戸の焼き物産業の中心地だったところにある。しかし、1980年代半ばの円高不況以来、焼き物産業は衰退を続けて、現在は廃業した焼き物工場の跡地にマンションが建ち並んでいるという状況である。それでも、地域には、昔ながらの街並みに残り、伝統的な焼き物作りに携わる人も少なくない。また、学区にある名鉄尾張瀬戸駅周辺は近年観光に重点の置かれた再開発が進み、せとものを販売する商店が軒を並べている。そういう地域に位置する本校でせとものを取り上げることによって、次のような効果が期待できると考えられる。

- ・「せともの」に関連したいろいろな職業人の方と触れ合える。
- ・製造業だけでなく、商業、サービス業など幅広い業種とかがかわれる。
- ・生徒の多様な興味や考えを生かした展開が可能である。

このような考えに基づき、本校ではせとものをモチーフにして、キャリア教育を進めていくことに

した。

(3) 3年間を見通したカリキュラムの作成

各学年の特性や進路指導計画などにも考慮しながら、3年間を見通した計画を立てることにした。中学校におけるキャリア教育と言えば、2年生で行う職場体験活動が大きく取り上げられる傾向がある。本校では、職場体験もキャリア教育の活動の一つとし、入学から卒業までの3年間で、本校にキャリア教育のねらいが達成できるように計画的に指導していくことにした。

3 キャリア教育の指導計画

(1) 計画の概略

学年	活動名	活動の概要
1年	せともの探訪	・せとものに関連する課題を班ごとに追究し、その成果をまとめて発表する。
	身近な職業調べ	・親や知り合いの人の職業について調べる。
	職業調べ	・興味のある職業を調べるとともに、特定の職業について全体で詳しく調べる。
2年	もとやま工房	・商品になるせとものを企画・製造し、実際に店頭で販売する。
	職場体験	・自分の興味のある職業について、瀬戸市内を中心にして職場体験活動を行う。
3年	上級学校調べ	・自分の進みたい高校・専修学校・職場について調べる。
	生き方講座	・職業人を講師に招き、生き方について講演を聞く。
	コミュニケーション講座	・自分の特性を理解し、アピールする方法を学ぶ。
	卒業記念プレート制作	・せともので卒業記念のプレートを作り、校内に設置する。

(2) 具体的な計画

本校では、主に、総合的な学習の時間に、キャリア教育を行うことにしている。また、学活での進路指導と重複しないように、学活の計画も調整し、内容によっては学活の時間に指導するようにしている。

総合的な学習の時間は、1年・2年で週に2時間、3年で週に3時間設定されている。そのうち、全学年で1時間を国際理解教育に、3年生で1時間を情報処理教育に当てている。したがって、総合的な学習の時間にキャリア教育に取り組めるのは、週に1時間しかない。しかも、その時間に、野外活動や修学旅行、体育祭、文化祭などの行事の準備や練習も行わなければならない。そのため、いろいろな行事との兼ね合いも考慮し、3年間を見据えた綿密な計画が必要となる。

次に示すのが、本校のキャリア教育の年間計画である。これを基に、学年ごとにより詳細な計画を作成している。

〔キャリア教育の年間計画〕

月	1 年	2 年	3 年
	○キャリア教育オリエンテーション（全校）		
4 月	○「せともの探訪」のオリエンテーション	○「もとやま工房」のオリエンテーション ○「もとやま工房」の商品企画	○「卒業後の進路を考えよう」
5 月	○「せとものの作り方を調べよう」 ○せとものの作品の構想スケッチ ○せともの作り	○「会社経営について学ぼう～会社経営講座」 ○「もとやま工房」の会社組織作り	○「上級学校を調べよう」
6 月	○せともの探訪調べ学習準備 ○せともの作り（施釉）	○各部署の活動計画 ○「もとやま工房」各部署の事前活動	
7 月	○せともの探訪調べ学習 ○せともの探訪のまとめ	○職場体験に向けて	○「上級学校を調べよう」 ○学校見学・職場見学の計画
9 月		○マナー講座	○「受験の仕組みを知ろう」
10 月		○職場体験に向けて ○職場体験 ○職場体験のまとめ	○「自分に合った進路を選ぼう」 ○生き方講座
11 月	○せともの探訪発表会準備 ○せともの探訪発表会 ○身近な職業調べ	○職場体験のまとめ ○職場体験発表会 ○「もとやま工房」準備 ○「もとやま工房」商品製作	○「自分に合った進路を選ぼう」 ○面接試験に向けて
12 月	○身近な職業調べ ○身近な職業調べまとめ	○「もとやま工房」商品製作（施釉） ○もとやま工房販売準備 ○「卒業後の進路を考えよう」	○コミュニケーション講座 ○卒業文集制作
1 月	○職業調べ ○職業講座	○もとやま工房販売準備 ○販売研修	○卒業記念プレート制作
2 月	○職業調べまとめ ○せともの作り〔工房試作〕	○もとやま工房販売準備 ○もとやま工房販売体験	○卒業記念プレート設置 ○受験に向けて
3 月	○「もとやま工房」のまとめ発表会に参加 ○来年度の「もとやま工房」に向けて	○もとやま工房のまとめ発表会	

*上記表中の水色の項目が，外部から講師を招いたり，校外で調査活動や体験活動を行ったりするなど，校外の職業人の方と接する機会のある活動である。

4 活動の実際

(1) 1年生の活動

1年生のキャリア教育は，その前半に，キャリア教育のモチーフとして据えた、せとものに対する興味をもたせることと理解を深めるための学習「せともの探訪」を行う。実際に自分でせとものの作品を作り，せとものを作る面白さを体得させる。そして，成形，素焼き，施釉，本焼きといったせとものを作るための一連の工程を理解させる。その活動の中で，せとものあるいは瀬戸に関連して興味をもったことを課題にして調べ学習を行う。調べ学習の中で，地域で働く人々の姿に触れるようにする。

後半には、職業についての理解を深める学習をする。まず、親や知人といった身近な人の仕事の内容、働く苦勞、喜びなどを調べさせる。次に、特に興味のある職業について調べたり、職業人の方を講師に招いてその職業についての仕事の内容、苦勞、喜びを聞いたりする機会を設ける。

せともの探訪

①「オリエンテーション」

まず、瀬戸の陶芸家を取り上げたビデオを視聴させた。地域に「せともの」の文化・産業があることを再確認するとともに、陶芸家の生き方に関心をもたせた。

②「せとものを作ろう」

せともので動物をモチーフにした置物を作らせた。^{ゆうやく}釉薬もかけ、本焼きもすることにした。せとものを作る一連の工程を理解させるとともに、せとものについての興味を喚起した。

③「『せともの探訪』調べ学習」

せともの作りを実際に行い、せとものあるいは瀬戸について興味をもったことを課題にして調べ学習をすることにした。生徒が設定した課題は、次のようなものである。

「深川神社～^{こまいぬ}狛犬の歴史」 「^{けいさ}珪砂の秘密」 「加藤民吉」 「本山中周辺の和菓子屋さん」
「招き猫・招く猫」 「陶祖祭」 「ノベルティの歴史」 「名物料理 in 瀬戸」
「瀬戸のおすすめ料理」 「瀬戸駅の歴史」 「陶器作りの道具について」



生徒は、班ごとに市内で調べ学習を行った。陶土採掘場から産出される、ガラスの原料である^{けいさ}珪砂について調べた班は、実際に採掘場に行き、珪砂がどのようなものであるか説明を聞いた。さらに、^{けいさ}珪砂と陶土、普通の土や砂をどのように分類するのか実演で示してもらった。

招き猫について調べた班は、招き猫を作っているせともの工場を見学した。そして、せともの店を回り、いろいろな招き猫があることや招き猫のいわれなどを調べた。

④「『せともの探訪』発表会」

2学期の学校公開日に、「せともの探訪」で調べてまとめたことを発表する発表会をもった。この発表会には、保護者のほか、学区の小学生、地域住民の方を招いた。

生徒は、パソコンを使ってプレゼンテーションをしたり、B紙(模造紙)を使ってまとめたことを発表したりした。



(2) 2年生の活動

2年生の活動の中心に、「もとやま工房」という活動を据える。これは、自分たちでせとものを作り、それを商品として実際に店頭で販売するという活動である。制作や販売の際に、実際にせとものを作っている方、店で商品を売っている方から、その方法を学ばせたい。また、その活動に付随して、会社はどのような仕組みで成り立っているか、販売をどのように宣伝するかなども実際にその関連の仕事をしている人から学ばせたいと考える。

多くの学校で2年生のキャリア教育の中心として行っている職場体験も10月に行う。体験する事業所を選ぶ際、生徒の興味・希望を基にするとともに、「もとやま工房」での役割分担を踏まえ、「もとやま工房」で生かせる仕事にも出掛けるようにする。例えば、宣伝を担当する生徒は、優先的にマスコミ関係の職場体験をさせるなど配慮したい。

もとやま工房

①「オリエンテーション」

生徒は、前年度の3学期に、「もとやま工房」の活動の準備として、自分で使うせともの（食器）を作っている。自分で自分の作品を使ってみて、「重い」「形が悪い」「口のところが平らになっていないので使いにくい」などの印象をもっていた。

4月、全校でのキャリア教育のオリエンテーションで、前年度の「もとやま工房」の販売風景の写真を見た後、学年でのオリエンテーションで「もとやま工房」で販売した商品を見せた。また、陶器店で売られているせとものを数点提示し、商品としてせとものを作ることへの関心をもたせた。

②「会社組織を作ろう」

学年全体を一つの会社に見立てて、皆で仕事を分担して作業を進めていくことにした。役割を分担する前に、せともの工場の経営者を招いて会社経営の仕組みや心得などを聞く、「会社経営講座」を開催した。会社で考案したせともので作ったはがきや陶製のノートパソコンを置く台などを持参され、そういう製品が誕生したいきさつや会社内の組織のことなどを話された。

後日、この講座の話に基づき、会社としてどんな仕事が必要かを皆で出し合い、それらをまとめて、経営部、製造部、宣伝部、販売部の四つの部署を設けることにした。



会社経営講座

③「各部署の活動」

製造部の生徒が、商品を企画するために、実際にどんなせとものが売られているか、どのような商品に人気があるのかなどを調べに行くことにした。校区の11軒の陶器店で、商品の調査を行った。また、経営部の生徒は、会社経営講座の講師の方が経営するせともの工場を訪ね、せともの作りに必要な様々な設備・仕事を見学した。

ホームページによる宣伝の方法も教えていただいた生徒もいる。

広報部の生徒は、ケーブルテレビ局、地元FMラジオ局、新聞社を分担して訪ね、「もとやま工房」の活動の紹介をし、取材や広報の依頼を行った。販売部の生徒は、陶器店で商品の並べ方や接客の様子を見学した。



商品調べ

④「職場体験」

10月16日から18日までの3日間、市内を中心に約40か所の事業所に出掛け、職場体験を行った。職場体験をする事業所は、過去に職場体験を受け入れていただいた事業所のリストを参考にして生徒が希望した職種・事業所を基に決定した。生徒は、自分の興味のある事業所を希望する一方で、「もとやま工房」の会社組織に基づき、製造部の生徒がせともの工場、宣伝部の生徒がNHKや地元のFMラジオ局で職場体験をした。



せともの工場での職場体験

⑤「商品を作ろう」（18年度の実践）

製造部のアイデアを基に、全員でせともの作りに取り組んだ。生徒が考えたのは、湯のみや小皿のほか、陶製のマグネット、写真立て、ペーパーウエイトなどであった。販売部の生徒の用意した図案を基に、製品作りに取り組んだ。講師に地域の陶芸家の方を招き、作り方の指導を受け、全員の生徒で製品作りを行った。

⑥「販売の仕方を知ろう～販売研修」（18年度の実践）

販売日を前に、販売や接客の方法を学ぶために「販売研修」を行った。陶器店の販売員や酒店の経営者の方などを講師として招いた。販売員としての心得を話していただいた後、あいさつの仕方や商品の包み方、お金の受け渡しの仕方などを具体的に教えていただいた。

⑦「販売体験」（18年度の実践）

3月に自分たちで作ったせとものを商品として販売する体験を行った。店を出した場所は、名鉄瀬戸線の尾張瀬戸駅前の歩道である。この販売に先立ち、宣伝部の生徒が送ったこの宣伝用のフリップがNHKの番組で紹介された。また、当日は地元FMラジオ局の番組にも生出演させていただいた。

当日は、生徒の準備した看板を掲げ、本校保護者だけでなく多くの観光客にも来店していただいた。生徒は、先日の販売研修で学んだことを生かし、笑顔で接客に当たった。昨年度は、4時間の販売で、約4万円の売り上げを納めた。

販売体験後、生徒はこの売上金の使途をどうするか何度も話し合った。最終的に、車いすを購入して学校に寄贈することにした。



商品作り



販売研修



販売体験

(3) 3年生の活動

3年生のキャリア教育は、実際の進路選択を目前に控え、中学校卒業後どのような進路があるのかを学び、自分の進路を決めていく活動が中心になる。

卒業後の具体的な進路選択の学習だけでなく、視点を少し遠くに置き、どのように社会で生きていくのかをこの時期に考えさせることも大切である。そこで、「生き方講座」と題して、実際に社会で活躍してみえる職業人の方を講師に招き、その生き方について話を聞く機会を設けることにした。また、自分に対する理解を深め、人と円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ機会も設けた。

最後に、1年生の時から取り組んできたせともの作りのまとめとして、卒業記念に思い出のメッセージを記したせとものプレートを作り、校内に卒業記念品として設置することにした。

生き方講座

「生き方講座」は、市民講師の方を講師に招き、それぞれの人生について語っていただくものである。新聞記者、和菓子職人、アナウンサー、市役所職員、美容師、レンガ会社経営者の6名の方にお越しいただいた。その仕事に就きたいきさつや仕事のやりがい、苦労などを話していただいた。生徒は、次のような感想を書いた。



和菓子職人の方の講座

○最初は特に考えがなくてやってみても、いつかはしっかりとした芯をもつことができるんだと少し安心しました。私には、今、特に決まった夢や希望はありません。将来どうなっていくのか全く分かりません。しかし、これから出会う人との交流を大切に、何事にも一生懸命取り組んで経験を積んでいきたいと思っています。

○僕はまだ15歳で夢も見付けておらず、困っていました。でも、講師の皆さんのおかげで、これから夢を見付けるチャンスが何回も訪れることに気がきました。講師の皆さんの話を聞いて感動しました。皆さんが今日までに、くじけず、あきらめずに夢に向かって頑張ってきたのを知り、すごいなと思いました。どんなことでもあきらめなければかなうんだと思いました。

卒業記念プレート作り（18年度の実践）

①「卒業記念プレートをデザインしよう」

本校では、数年前から卒業記念として、思い出を記したせとものプレートを作り、校内に設置するという取組をしている。過去の卒業生が残っていた、プレートを参考にしながら、自分のプレートのデザインを考えさせた。

②「プレートを作ろう」

自分で考えたデザインを基に、陶芸家の指導を受けながらプレート作りを行った。生徒は、卒業の記念になる言葉を考え、それを立体的に表現した。

③「プレートを設置しよう」

施釉^{せゆう}、本焼きを終えた作品を校内に設置する作業を行った。昨年度は、運動場のスタンドに設置することにした。全員のプレートを合わせて、「本山」という字を作った。後日、校長を招き、学校に対する贈呈式を行った。



完成したプレート



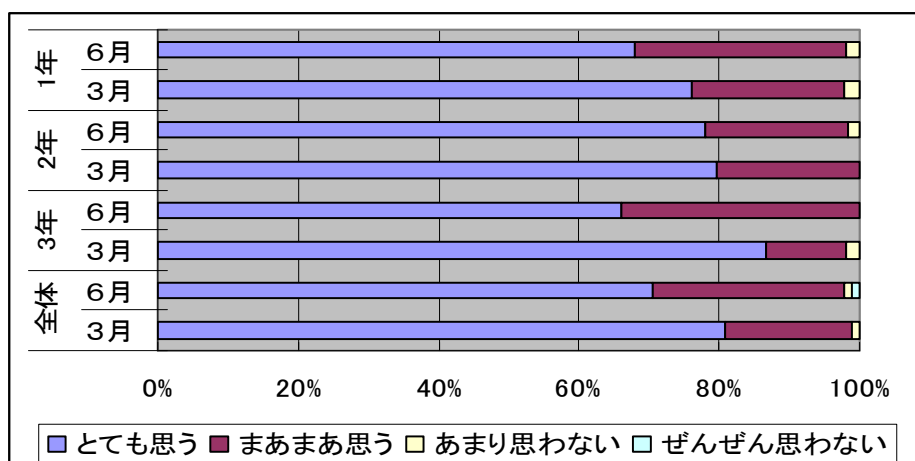
設置したプレートを囲んで

5 まとめと今後の課題

本実践のねらいは、職業や働くことについて理解を深めさせること、さらに、職業や働くことに対して、前向きなとらえ方、積極的な職業観・勤労観をもたせることである。

その成果を評価するために、生徒の職業観の変容を見ることにした。昨年6月と3月に意識調査を行った。ここでは、生徒が将来働きたいと思うかどうかについての調査の結果を検討したい。

〔「将来働きたいと思うか」という質問に対して〕



本実践を行う前の6月では、「とても働きたいと思う」という生徒が70%であった。それが3月には81%に上昇した。「とても働きたいと思う」と答えた生徒の割合は、どの学年も上昇しているが、3年生は66%から86%に大幅に上昇した。本実践の成果としてこのように就業意欲、勤労意欲が高まったと考えたい。

どんな仕事に就きたいかという質問に対して、ほとんどの生徒が「やりたい仕事」「自分のよさを生かせる仕事」を選んだが、「もうかる仕事」「楽な仕事」を選ぶ生徒も増えた。これらの観点も就業の観点として否定できないが、より積極的な職業観・勤労観をもたせるために、生きがい、やりがいあるいは働く喜びのようなものに触れさせる機会をより多くする必要があると思われる。

本論で述べたように、本校では、せとものをモチーフにしていろいろな職業・仕事に対する理解を深める活動に取り組んできた。3年間の指導計画を立て、学年に応じて計画的にキャリア教育を実践してきた。今年度の実践がそうであったように、今後もよりよい実践を目指して、前年度の活動内容を踏襲しつつ、それを見直し・改善していきたい。